

リテイヤ（永眠者）

輔司誦

君や、祝讃せよ。

我等の神は恒に崇め讃めらる、今も何時も世世に。
アミン。

常套の始め

我等の神や光荣は爾に帰す、光荣は爾に帰す。
天の王慰むる者や、真実の神、在らざる所なき者、満たざる所なき者や、萬善の寶藏なる者、生命を賜うの主や、来たりて我等の中に居り、我等を諸の穢より潔くせよ、至善者や我等の靈を救い給え。
聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者や、我等を憐めよ。（三次）
光荣は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

司詠

至聖三者や我等を憐めよ、主や我等の罪を潔くせよ、主宰や我等の愆を赦せ、聖なる者や臨みて我等の病を癒し給え、悉く爾の名に因る。
主憐めよ。（三次）

光荣は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

天に在す我等の父や、願わくは爾の名は聖とせられ、爾の国は来たり、爾の旨は天に行わるるが如く地にも行われん、我が日用の糧を今日我等に與え給え、我等に債ある者を我等免すが如く、我等の債を免し給え、我等を誘に導かず、猶我等を凶惡より救い給え。

蓋国と権能と光荣は爾父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に。

アミン。

讃詞

人を愛する救世主や、死せし義人の靈と偕に、爾が僕（婢）の靈を安んぜしめて、彼（等）を爾に在る福樂の生命に護り給え。
主や、爾が諸聖人の安息する處に、爾が僕（婢）の靈を安んぜしめ給え、爾独

り人を愛する主なればなり。
光榮は父と子と聖神に帰す、
爾は地獄に降りて繋がれし者の鎖を積きたる神なり、親ら爾が僕（婢）の靈
を安んぜしめ給え。
今も何時も世世に、アミン。
独 潔く玷なき童貞女、種なくして神を生みし者や、彼（等）の靈の救われ
んことを祈り給え。

重 聯 禱

神や、爾の大なる憐に因りて我等を憐めよ、爾に祈る、聆き納れて憐めよ。

主憐めよ。（三次）

又寝りし神の僕（婢）〔某〕の靈の安息の為、及び彼（等）に凡そ自由と自由ならざる
罪の赦されんが為に祈る。

主憐めよ。（三次）

主神が彼（等）の靈を諸義人の安息する所に入れ給わんことを祈る。

主憐めよ。（三次）

彼（等）に神の憐と天国と諸罪の赦とを賜わんことを、ハリストス我が死せざ
る王及び神に願う。

主賜えよ。

主に祈らん。

主憐めよ。

諸の靈神と諸の肉體との神、死を亡ぼし悪魔を虚うし、爾の世界に生命を
賜いし主や、爾親ら寝りし爾の僕（婢）〔某〕の靈を、光る處、茂き草場、平
安の處、病と悲と歎との遠ざかる處に安息せしめ、善にして人を愛する神なる
に因りて、彼（等）が、或は言、或は行、或は思にて犯しし悉くの罪を赦し給
え、蓋人一も生きて罪を行わざる者なし、唯爾は罪なし、爾の義は永遠の義、爾の
言は真実なり。

〔高聲〕 蓋ハリストス我等の神や、爾は寝りし爾の僕（婢）〔某〕の復活と生命
と安息なり、我等光榮を爾と爾の無原の父と至聖至善にして生命を施す爾の神とに

献^{けん}ず、今も何時も世世に。

アミン。

睿智^{えいち}。

詠 司 輔

至聖なる生神女や、我等を救い給え。

ヘルワイムより尊くセラフイムに並びなく栄え、貞操^{みさお}を破^{やぶ}らずして神言^{かみことば}を生み
し、実^{じつ}の生神女たる爾を崇^{あが}め讃^ほむ。

司 詠 司 輔

ハリストス神我等の恃^{たのみ}や、光荣は爾に帰す、光荣は爾に帰す。

光荣は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。主憐めよ（三次）。

司

死より復活せしハリストス我等の真の神は、その至浄^{しじよう}なる母、光荣にして讃美た
る聖使徒、克肖^{こくしょう}捧神^{ほうしん}なる吾^わが諸神父、亜使徒日本の大主教聖ニコライ、及び諸
聖人の祈祷^よに因りて、我等に別れし其僕^{その}（婢）〔某〕の靈^{たましい}を、諸義人の住所^{すまい}に入れ、
アウラムの懷^{ふとしろ}に安んぜしめ、諸義人の列に加え、及び我等を憐み給わん、善にして
人を愛する主なればなり。

詠

アミン。

永遠の記憶

（一、二、のどちらを用いても良い。）

輔

一、福^{ふく}樂^{がく}に適^{かな}いて常に記憶せらるる吾が兄弟（姉妹）〔某〕や、爾の記憶は永遠な
る哉^{かな}。

二、主よ、爾の寝りし僕（婢）〔某〕に、其福^{そのさいわい}なる寝りに於ける永遠の安息を与え、
彼（等）に永遠の記憶をなし給え。

詠

永遠の記憶。

（三次）